

破損あり

以下 汚れあり



日向之はが

仙北郡都

二卷

夏まつり川

上淀川邑

五箇島と二河

中庭川邑

保呂の神社

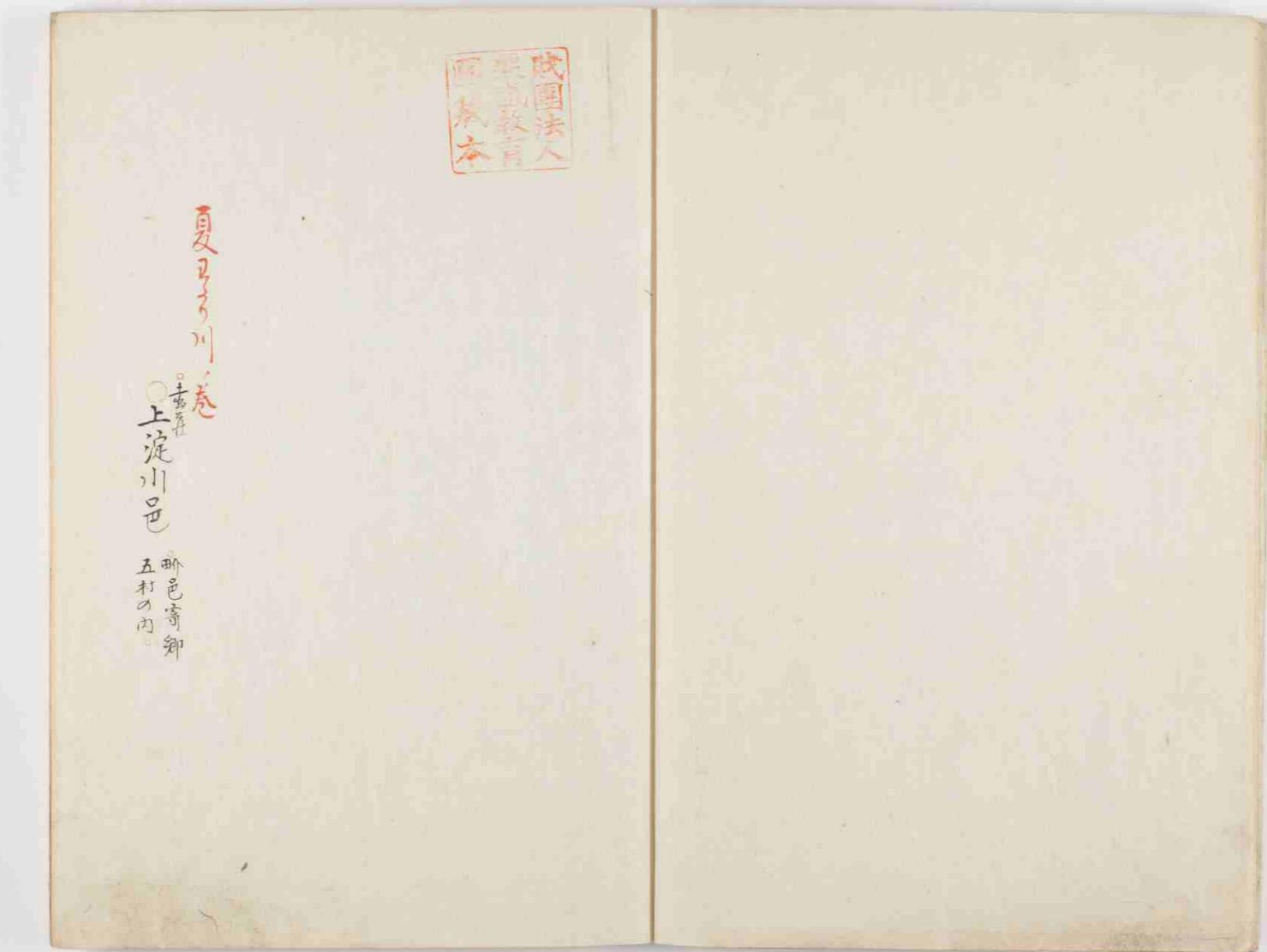
下淀川邑

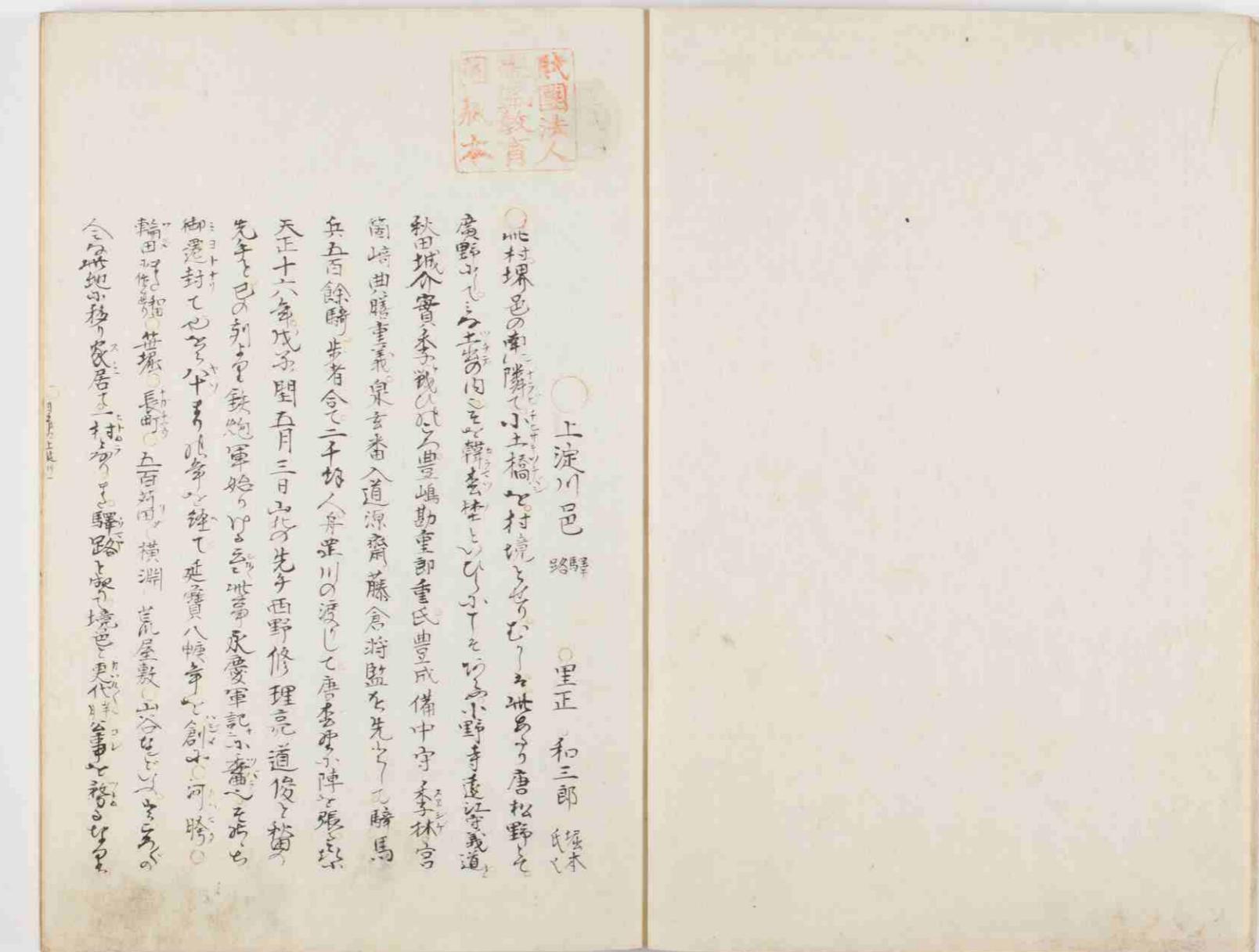
千葉山とさわ

小種邑

室町之堂

福倍蘿邑





享保郡邑記上淀川村家貢土十軒百三四疋已前羽立新替。驛馬

荷和野三里九丁三十六間。和田三里拾丁四十三間。自館六里

四十五十三間。見えり。是れは淀川村の創始者をもとありけり。

○夏渡夏橋む。唐松寺野陣。五月雨。洪水。馬泳。これら湧りしき。

其時より夏河川の急水流て今板橋となり往復旅人やも多ひ候。無事の

橋と大橋を。○田地字。大橋向。横瀬。新山。和田。和田河邊郡。新山。川勝。

芦坂。長町。五百荅田。横瀬。熊澤。島もへ丸。也もへ丸。大木

延寶のひもを。極家。あらしが。今田。佃。村名を。字あらぬ。山の字も

大館。此館地。む。多賀。今殿の。も。く。佐佐。わ。し。る。は。土俗。言。老。諺。ほ。そ。

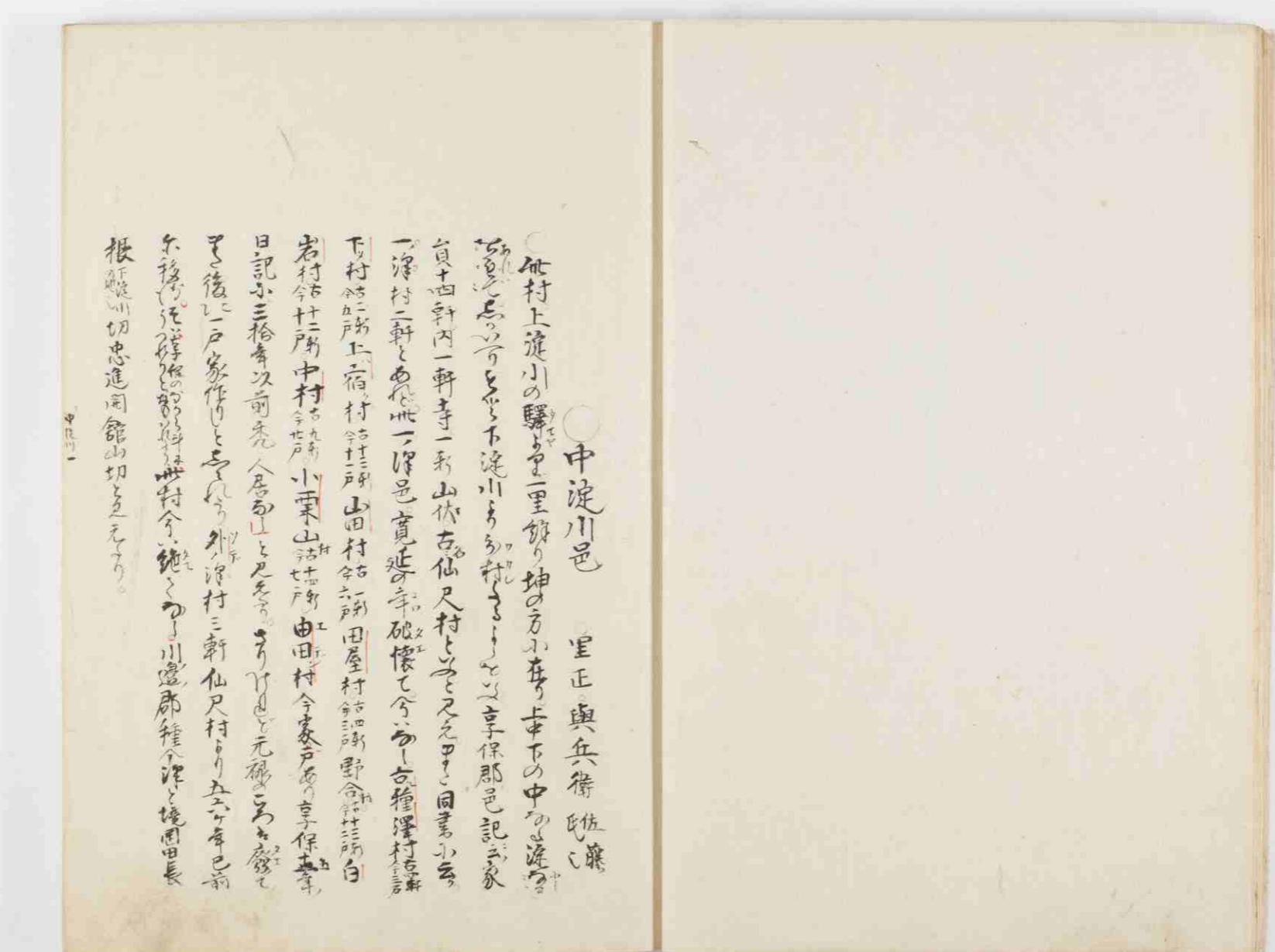
○古。津。む。神。移。あ。り。つ。む。檜。山。長。根。二。重。同。き。と。を。有。り。けれ。

○神明宮。村中の東の方松原の内母宮也。有。祭日。六月朔日。御。祭。也。

地日神酒。醸して。献。夏別當。和光院。修驗者。僧。多。少。也。ト。念。珠。勅。お。と。み。す。を。黒。人。鮮。れ。も。あ。み。が。て。ひ。ら。ま。頭。不。當。寡。す。ね。す。ひ。酒。終。て。翁。も。あ。も。も。唱。ま。酒。あ。が。ま。宴。會。こ。ま。す。と。地。色。の。み。が。美。山。宮。圓。澤。了。れ。あ。る。そ。と。其。山。は。鎮。座。と。今。驛。路。始。て。人。ま。つ。も。こ。い。ほ。う。来。て。あ。神。社。を。す。う。つ。齋。事。も。至。じ。か。あ。る。や。ど。こ。う。な。う。今。宮。不。深。と。学。じ。一。も。う。め。も。と。神。社。の。祭。禮。の。神。旗。神。前。の。額。を。手。出。山。と。書。ア。是。で。表。エ。土。出。の。名。舊。事。も。あ。れ。る。







○仙尺村

中淀川村方
古名多子

○十羅刹社あり。是うちの事も而立たず。モ陸海ノ事也。
祭日三月十六日。九月十六日。別當。清水寺。世社。戸塚上藤分某城。
跡を齋戸。津家鎮守神也。

○清水寺

修驗流

○金海山。清水寺。修驗者。開祖遊善。二覺應。三世敬宥。四
世寬宥。五世寶宥。六世宥覺。七世自宥。八世覺宥。九世宥譽
十世現住宥光也。

○太寧寺

草堂洞宋

○花嶽山太寧寺

禪林かして在内善法寺。東院也。

○上宿村

宇波斯

○神明宮。祭日。三月十六日。別當。上淀川邑修驗和壽院。

○千村

新多

○樂師如來社。祭日。三月十六日。別當。

當村ノ仙人。清水寺

○山田村

○若宮八幡社。祭日。九月十五日。別當。

○清水寺
和壽院

○田屋村

○神社。祭日。九月十五日。別當。創名也。多く名也。

里合村能阿

むし理間山て寺修る為めに縣會郡相手事を神酒で又村多

白岩村

○千手觀音社。祭日。六月十七日。別當仙尺邑。清水寺。
白岩山本郡常葉。常葉も村の邊も白岩と名づけ
雄勝郡が米瀬延く白岩村あり。是より多くはれども此白岩。此
三代實錄十卷。貞觀十二年八月廿日條。授參河國正五位下知立。
神祇鹿神在正五位上從五位上挾提神正五位下出羽國白磐神
須波神並從五位下。是と見えて。白磐諏訪もと云々。鎮座
御神。出羽國也。と多く神社。如白磐と須波と。并て三代實錄記
述す。出羽國也。蘆原の神地。と云ふ。其の事。と云ふ。

ことうどくまじめをあらわす。良事。をもゆる。

中村郷助

劉高達水草

○謫訪明神社。祭日。七月廿七日。六郷の謫も。亦。日。御射山祭。
此。鎌葉舊。画。奉。之。鎌葉。萬葉。鎌葉。屋。等。萬葉。是。鎌葉。家。之。
神。之。之。舊。畫。舊。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
迄。川。謫。訪。祭。仙。北。郡。中。淀。川。里。中。供。御。和。鳥。賦。數。子。鮎。鰐。
蟹。等。蟹。等。之。奉。之。之。乃。之。之。至。之。三。月。兩。日。神。事。之。之。
舞。し。し。初。稻。御。の。神。祭。ア。ム。モ。テ。振。シ。二。德。三。德。ひ。ミ。テ。田。主。多。子。
是。語。方。社。主。懸。て。至。之。地。之。之。少。了。福。之。之。無。之。正。月。十。五。日。小。童。
御。事。之。之。五。鶴。之。管。之。之。信。濃。須。波。神。事。之。春。奉。之。之。首。之。之。

是も七日午後七日ハ謝乃近御ひづれに此日を芒の茎と簪とて祝膳奉爲
松本近く薄明神ニ西行其モ神乎殖穀の爲也。稻利葉木屋の御子
雙足よりはやの下を走りて、總屋をう詠訪ノ明神乃津射山。祭事
長官五官鎮安等の達假屋をうて今小縣郡上穗屋の地名ト龍摩
郡松本の東諏方郡御射山神戸内未とも小ほや野め古謝乃八國ト
稱す思諸郡う日すくつむけ下、續古今集に野鹿、破寢するは只
薄刃竹風ふそくじて鹿も書つてし。七月廿三日の事也。時候小
ひがみを放ひ今ハ青葦と見えうる。そのま洲羽御神全國に屬し
齊山の由緒ある處で、かつては、室二郎の由と多く傳へ居る。其の由
多々鷹乃古事記傳亦道ゆ限り逃賊のる。北湖岸主室主
統小道也。逃賊のる。其の由を迎到とす。即其意也。

俗傳御事時其由りてゆづ伊勢へ逃賤ひりて吉倉山の岩屋伊勢津乃人
 住軍ノ罪也。神宮のまゝくほづの時、時事にあらず居まつてかのりす。義
 伊勢守候して信濃一志賜ひまし作事津美君風雲緊急如く神宮令主御神少主御
 名方神との別りての信濃則水波伊勢津美神社あり。古事記云々てはく。傳
 ありて有りて持統紀始迄ノ研禪諺誦神小野村又作勢外弓弓子河内高倉出づ。土司
 神山と云ふ名神社多く存す。建御方神を祭る。神宮事務小野村外系伊勢津乃人
 の社也。伊勢守と有りて。多聞人の風主説之れ。則金間曰。源國朝於天孫義名同
 吉不真。本國居住日久。不敢聞。余。若天日別命及坂井敷設其神。當時是後。度曰。吾國者。源
 天孫云々。有阿房殿の建御方神。御名方神。神山神事に。主同き。す。よく當ます。御祖也。伊
 勢津彦神。りうと云説も取らる。御名方神の一名と見る。よく當ます。御祖也。伊
 皇の御父神。御名方神。續後紀小美奈九年五月奉授。信濃國飯方郡先位勳集
 御名方刀美神。從五位下。上講訪御神事。今同章十日奉授。信濃國元位健御
 名方富命。前八坂刀賣神。從五位下。地健御名方富命。冰内郡の社。八坂刀賣神。
 今下講訪御神事。前のと上傳。三の千葉小妻。御神之御。神と云ふと云ふ世間と御の事。み
 園ことづれ。遣。齋。き。む。事。も。も。ト三代實錄十卷。貞觀。十二年
 事。前。子。之。中。近。川。の。諺。方。神。社。と。く。深。て。淵。よ。臨。て。白。岩。村。と。東。之。

東小瀧川の流を陽と西の方中村と。宇村端末神坂。まづあれ。太宗
 宮造。て。健御名富命。帝。奉。と。く。ま。す。と。諺。訪。風。御。神。名。風。の
 鎮。ま。こ。そ。ば。う。の。み。え。す。と。く。ま。す。と。諺。訪。風。御。神。名。風。の
 ま。せ。り。建。御。瓦。神。風。神。と。申。事。真。澄。者。小。御。方。假。孚。て。勅。ろ。と。誠。て。神。の。風。も。り。も。け
 れ。そ。と。と。と。建。南。方。神。と。ま。す。と。諺。訪。風。御。神。名。風。の
 ま。神。大。舊。社。地。と。白。岩。村。と。耕。田。寺。と。寶。永。八年。二。三。主。小。田。馬
 五。高。丘。衛。毛。村。革。創。の。者。廢。も。し。と。や。あ。り。と。今。の。清。水。寺。ゆ。う。と。
 中。村。遷。移。り。て。詔。五。社。向。高。向。北。小。澤。切。南。小。路。切。西。鄉。林。切。東。山
 古。德。之。耕。田。寺。跡。南。一。厄。切。之。之。耕。社。荒。川。村。奥。も。一。涪。夢。時
 濡。東。陽。川。妙。神。と。さ。一。涪。夢。廣。も。走。ぬ。地。され。白。磐。神。須。神。並。

従五位下を授り賜ひてあらとあおこをあつまむる荒川河奥もと源
かよて山岩より鎮りゆく。まがるもさうあらそとあら川の奥を白青
宮より書はれ大玉原を守護す。流歟を信濃國諏訪の三十九神社
そび小荒玉社玉尾社あり。神もお祭る事はあつられまつて。此白壁
神須波神社二柱の御神の事あづひけりやこひを思ひはれまつて。三
説ち。神門の右方一小大玉の石を立てて石画を吉。金剛童子画を用ひ。三
猿坐す。此石左下年自然の祝葉あり。その高二尺耳を全ひし。後更に
人作の物を以て是を忌み石の化て石となり黒木をども交えあつて。
此石は天明三年四月十日と刻す。もと其頃まろ石築
立尼生て塙せむ。からて。捨年也。度半塙もじき。これを人名を
記す。あすとよまつて。年中守。御神を守り。おほむとすを画う。作の
人。伊勢守。其の姓。名。不詳。

今ハ子の小あら廿月廿九日。ハ舟早。寄りて。川原守在。唐桑
水ふらはれ。ひくし。年少の身。もよ過り。上中下の達川。下ノ代
上津瀧。源を下瀧。ひきよみ。中達川。小瀧。みそをせじ。
地麻の第。手多を流。世謡訪。入信等。上根小屋坊。濱江家より。余料。そ
一斛。米。と。玉貞の内。もう。御給。餘。主。も。其。家。領。知。られ。て。と。御。贈。を。寄
鎮守神。と。主。お。か。り。繪。と。て。地。社。延。き。こ。う。と。く。大。ま。う。小。か。ね。ん。ま。け。す
達。り。か。に。し。室。正。佐。藤。譽。惣。左。衛。門。信。象。正。に。最。家の。家。譲。と。伊。屋。テ。
今日。岩村。佐。藤。里。白。龍。山。と。黄。金。色。白。鳥。の。文。字。の。額。地。信。象。と。譲。夏
神。翁。小。御。く。す。る。書。を。久。保。由。の。應。傳。寺。湛。然。上。人。之。世。佐。藤。聚。下。龍。形。方。と。註。
今。御。傳。寺。湛。然。上。人。之。世。佐。藤。聚。下。龍。形。方。と。註。

○小栗山村 諸見理

○享保郡邑。寺一軒。山伏二軒。古往修驗の清水寺の二戸あり。郡邑記載。譜文も。今ある。かむ思ひ。寺宇は。保のころ。常樂坊とて。山伏を其手に。常樂坊を。遣詔され。或ましく。文化五年。小土民と。今。權太郎。常樂坊。後田僧ト。かりぬ。と。又。家め。あす。着用村山。す。以て。方丈。圓舟。天皇。寺を。仙窟。と。僧。佛利。あり。十羅刹神。鬼子母神。堂。と。半説。存り。其他。て。仙窟。と。家め。と。清木寺。修驗者。あす。實。き。田道。と。此。清水寺の上祖。元社。從みて。下淀川の河原。村の大覺院。う。分派。た。吉野。花岳。太寧寺。もの。よ。天台宗の。萬福院。治承様の。こも。ゆ。し。破。懲。善。義。瀧寺。四。世。小。大。正。一。山。宗。清。和。同。再興。セ。草堂。を。掌。て。仰。慕。深。時。天正。年。あ。る。か。ひ。而。毎。漏。光。亮。と。虎。と。浪。立。て。昂。叶。萬。八。急。大。法。師。ト。かり。て。

○晚漏話說

○温泉。瀧の湯。御水浴。龍を高め。か。きれ。じ。も。温泉。ち。じ。ど。く。ぬ。泉。湯。も。今。も。も。絶。て。冬。日。と。お。水。の。ろ。か。く。か。て。び。寒。一。た。そ。湯。香。と。造。り。湯。舟。水。没。合。じ。て。壁。焚。き。涌。し。湯。と。せ。り。け。れ。や。ま。う。と。も。く。所。れ。事。試。る。あ。ぬ。の。事。い。か。か。く。わ。い。ま。よ。く。の。爲。魚。を。す。ま。る。よ。

○由田村。由傳。古名石地。

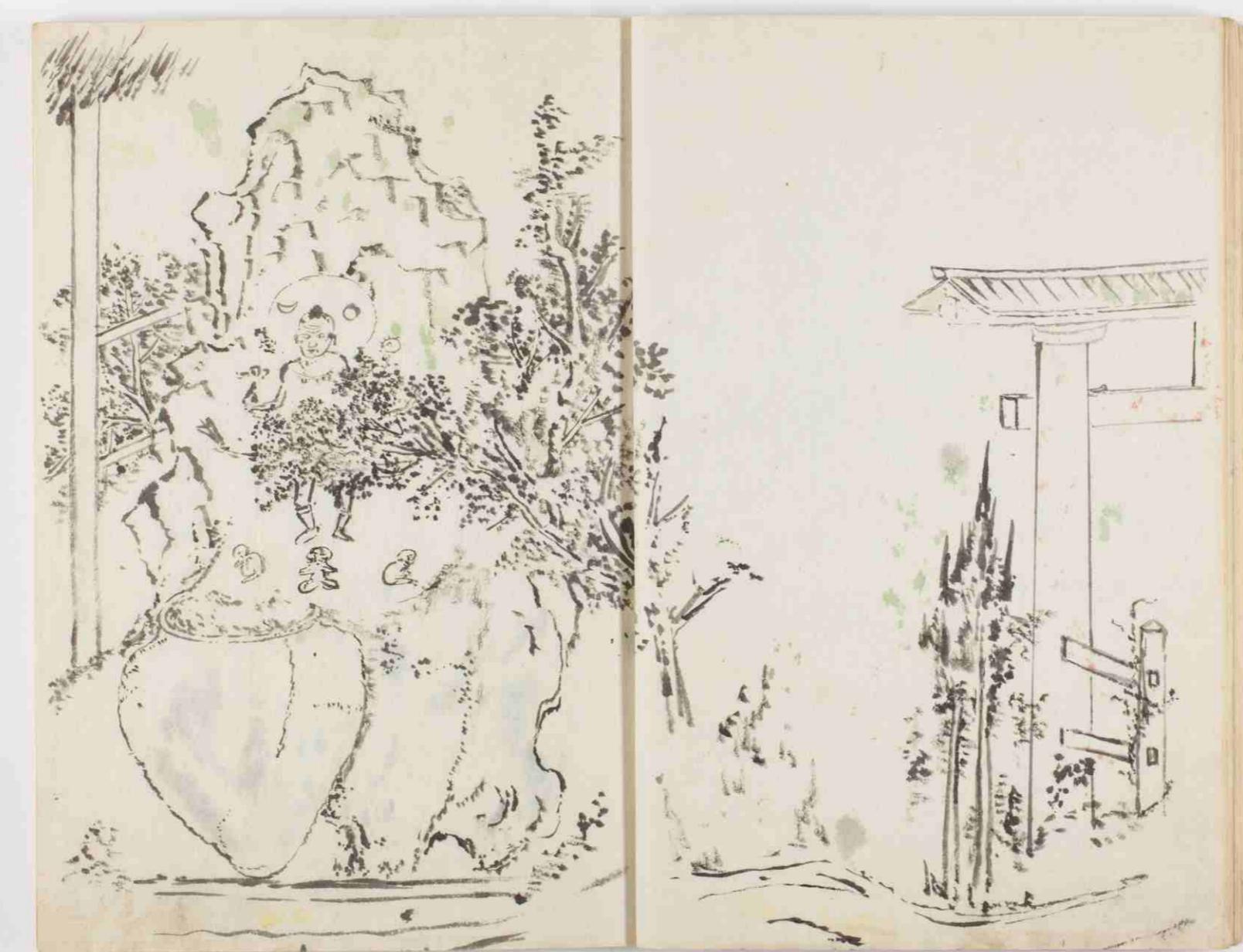
○平年觀音堂。祭日三月十七日。別當清水ま。

○金山中小家一戸あり。享保郡邑。由田村。三松。年。已前。秀人居。か。と。万。支。ら。村。施。く。ま。と。貞。主。移。り。ま。る。が。く。

○大山祇社。古種澤。ノ。前。小。魔。祭。祭日九月十五日。奉。至。青。五。郎。ト。牛。祭。









○下淀川邑

里正・吉善藏

今氏

此邑中淀川の南に小河を中で水村續後津邑（のちのまち）に至る年未の事
小種福都羅（チホドロ）の村を近津（チホシ）ともし書、下淀川より小河を流れて島
東下淀河を事にせら有（アリ）正徳元年方（カニツキ）淀川上大村達川中村達川
下大村と云（ハスナガル）上淀川中淀川下淀川と云ひて其處は事に島
里民の言考（カウコウ）物語（モノガタリ）を有せば此邑の屬郷（ヒヨウノシテ）古十三下村ありし今十村

○園田村

此村中淀川の西南方少在り村町（シロガタ）、里田少甚無主在れど、此之郡邑
記事、深澤園田村に於て二村一郷の名とせし今深澤敗田富家等
主保の子を家主耕者とすを二戸居、阿部三郎とその子の後鳥
○不動明王堂 東山 富地不動堂祭日四月廿日 麟生河原村今喜義

- 能勢瀬村文殊能
- 園田川越
○龍堂と本地名の修驗大覺院居住り琳家（さきや）も古びてはれ候せり。而も今
皇祖の名を承る所を亦有す。修驗主焉は琳院より出でし者を有する。今
○藥師加來社 祭日四月八日 別當大覺院
- 河原村加波
- 中里村那加
- 西村連新
- 母衣社下雲集二綱と義家三代實鏡小保信良 義家朝臣の保持（いじき）也。 痞至鈴木左衛門
- 西村連新
- 西村連新也。中宿至ひ。驛路を以て有り。今の中里（中里）と云ふ。其地に
西邑を基地亘（さかまき）。鈴木兵左衛門家二戸を有して中里とひて此一衆を毫
八幡宮下達川一村の鎮守と。今田上中城館濱江家の領知られ。一石の
祭料を給。祭日は六月四日。初日より山あひて今七月毒。廣至鈴木左衛門
を主く地神社。寛治五年の事。源朝臣幡太即義家將後毒
金澤せめど。西村を主とす。軍を切ひて後をあり。總
猿田村の里正武藤伊賀某（さとう）。其家を主とす。兵糧乞給ともあは。伊賀某
家を白米の米五斗を助け奉給しが文禄年中大災を主と御奉古記

筆。縁故あらそと武蔵氏の祖伊賀義家公あるの跡を社地にて一筋山ちて正ハ幡立て巻き茅と義家將軍神名。輪ひ、一十五分咲くの萬葉の神像を、此五年も。數度てより申で申す。云々多きあり。其處至る多く。ゆりのれ。鈴本無庵焉。家よゆづる。一とぞう。あまに。祭日祝詞。料主。白米一升水五十鉢。おひて。美濃。山城。の齋主。もす。ひれ。故事。子。蕉跡。をとく。銀。

○箭掛野。義家將軍。逆頬。か浦の。かた。置絵。他。本社の北。常川。中庭。下庭。の。村境。や。とも。矢縣。也。と。い。

○猪山白旗。本社の北。在。

○綱懸。本の北。西村内。や。て母衣社。あり。土俗。お印の社。と。い。

○轟樹。本社の南。在り。今。を田し。あり。その田。方。ある。所。の。かつ。

○沼野上村

西村。と。東南。の方。か在。る。多。多。の。村。むじ。と。大。宮。あ。り。て。多。良。の。事。多。い。も。あ。り。と。有。り。木。生。き。る。多。田。地。と。あれ。ど。今。も。沼。上。村。名。萬。○神明宮。村。中。小。屋。祭。日。七。月。土。日。　病院主。加。藤。怒。古。御。門。北。御。社。奉。敬。日。堂。吉。向。貞。の。書。棟。札。あ。り。と。今。小。倉。主。永。主。世。あ。る。音。島。い。し。今。す。の。書。せ。う。ぬ。秋。田。郡。鶴。年。田。太。日。如。来。報。記。と。棟。札。の。高。貞。書。せ。し。棟。札。を。ひ。て。爆。起。さ。き。を。復。ゆ。

○阿弥陀佛堂。田。中。寺。大。櫓。下。木。主。多。其。本。小。地。藏。堂。も。建。り。地。色。古。八。軒。今。土。戸。あ。る。沼。田。主。せ。れ。家。多。と。飛。主。進。藤。名。古。御。門。心。

○中嶋村。自。麻。

○沼野川。の。間。多。家。三。戸。あ。り。と。中。島。今。の。田。中。二。戸。を。有。け。つ。

○宮田村 美夜 集

むす金。雅樂至ま。雅樂介をも。人吹色五六の家。手作方。後。阿部村小後。事。所。象け。机子。委曲。し。ま。ゆ。事。あ。御。そ。う。と。裏。院。あ。も。一戸を。廻。し。事。之。表。雅樂至。後。五。分。交。令。事。有。此。

○熊野社。祭日四月八日。廟至今事合歟。之村を絶て。田と廻り故。

○猪田村

○平鹿角小猪田村あり。秋田郡山内郷。猪田寺跡。猪田はと云ひ。山内郡廣尾枝郷。山屋。猪田並。山屋。木山矢と。古がそ。中。は。と。万。集。御。當。足。山毛。作。猪田。左。田。作。主。も。山屋。猪田並。び。ま。し。地。下。達。リ。の。猪田。是。山。名。と。あ。と。び。多。り。似。る。然。も。あ。の。く。世。猪田。寺。と。い。か。家。一戸。か。て。而。舊。伊。賀。其。後。半。新。藤。助。左。弓。居。家。有。小。猪。田。山。大。根。田。山。奥。等。

在うちも。し。猪田彦。大神。み。お。亂。あ。り。て。の。名。あ。り。せ。ひ。亂。火。世。乱。腰。

上祖。伊賀見子。二代。助。左。衛。門。三代。門。世。一。代。黒。長。と。称。す。慶。長。七。年。御。連。邦。の。家。之。う。波江。家。領。知。老。主。傳。と。也。之。う。家。藏。古。記。錄。

内。小。中。淀。川。小。種。井。小。武。藤。伊。賀。開。地。由。烟。通。い。遠。川。上。名。子。分。譲。是。多。若。狭。害。や。鳥。の。田。屋。守。を。置。一。事。之。う。其。後。小。中。淀。川。小。種。村。と。市。定。の。い。ま。よ。久。と。ど。多。て。五。月。二。日。而。腰。判。淀。川。村。か。く。一。化。五。段。へ。や。す。事。蒙。其。年。十。九。六。日。而。腰。判。淀。川。村。

三。右。五。拾。石。上。三。右。五。拾。五。石。但。己。半。入。三。百。五。十。俵。也。此。

お。き。く。上。重。ら。度。き。量。限。一。往。

九。月。十。二。日。

猪。田。村。

御。傳。

波江。家。領。

慶。長。八年。の。ふ。ろ。お。そ。ま。と。さ。達。川。上。二。村。淀。川。中。二。村。達。川。下。守。と。云。ひ。く。上。淀。川。中。淀。川。下。淀。川。

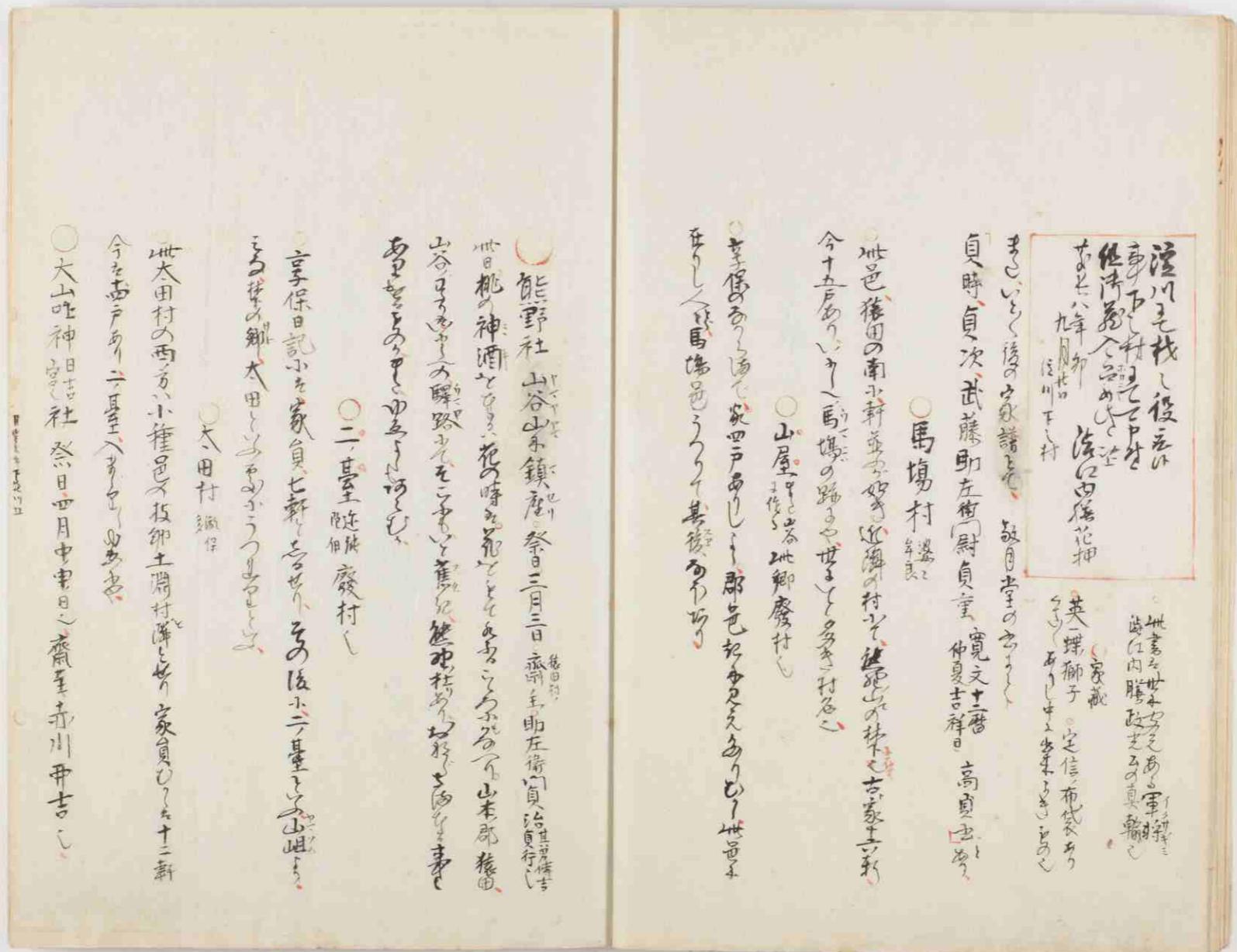
五。月。十。二。日。

猪。田。村。

御。傳。

波江。家。領。

慶。長。八年。の。ふ。ろ。お。そ。ま。と。さ。達。川。上。二。村。淀。川。中。二。村。達。川。下。守。と。云。ひ。く。上。淀。川。中。淀。川。下。淀。川。



○深山神社 祭日二月三日 神祇主赤川長作
 ○辨財天女社 山谷山内主原 馬鹿村 蘭主源吉門

○逆樹 基本と事とを八幡宮本社南水田子村の事と至る。跡後
 八幡宮御手洗の上ある地と大蔵と人縁の多種木根倒立と生れ立
 て来たる。後家將の傳承と至る方と生れ立と逆木と生れ立と
 ある。李館 無野山の端子在所館主と知る。○腰長越此山の縁
 あり。○然改山経堂館と云山谷の上物山の世結と云馬場跡と云舊
 道所迄郡の新田と雲小屋平尾山と云り東郡駒木郡方
 今中達川の白岩山の下段川の中筋に西井里姓化坂西井頭領

○湯瀬湯瀬 吉川墨林子と云。序平屋と云。至りて狩苑と云。出と云。
 ○田地田地

辛夷田 因心田 大猪田 小猪田 車田 辛田 逢田 折渡
 苇津 藤原 修義 柳原 柳原 三輪 一ノ丸 五郎 五郎

○山之字
 小佛山 大師山 相木津山 無取津 五郎魚山 丸
 田之字 五郎魚山 五郎魚山 五郎魚山

○村詰家合見七十九戸 ○田人數三百十六人 ○馬數百十二足







○ 小種邑

里正 加藤小三郎

○ 小種邑
○ 種子の不成立で種地無きと云ふ處に地主あり。小田根の
うち他郷本太田根津をもつておるも亦り。多く種は種市
をもつておる。田を保有する者。其處に經營田業する者等々。し
七箇村の牧郷より土淵川口小種上野中新田大新田中津生をも

○ 上野邑

宇波

○ 小種の東小在り。地色大沼あり。東西水廣相似。六七箇中上而小種
新田の向母子弓の木曲弓の事。を輿記。里正加藤氏。并
上野子柄家林泉の樹木百を達ひしと古くす。

○ 藥師如來堂 金峯山新田寺。奈良四月廿日別當 大覺院

○ 飯形明神社 祭日六月朔日

別當

龍正院

○熊野權現社

彌都波能賣社
兼主共同

地藥師如來社也。善治社も。別當義本坊と。西門東流今龍正院の御堂也。薬淵庵堂大國院也。印傳りと。

○土淵村

平鹿郡横手山内郷不同名。津輕小玉の土淵川め事。北の字。北の字。

享保郡邑記事云。家貝郡河邊郡種澤と壇林嶺切。同郡左季

村。高野境。塙切。龜田由利郡之内。大正寺と境。跡間塙切。同郡。可破。

田村同姓。作村塙切。名をり。世昌平達川の太田邑と。至る。

○藥師佛堂。面鏡山百泉寺。奉日八月日。別當龍正院

別當義本同

○河口村

加瀬
里名

下漣川邑山踰の徑あり。南方河南。青森村。又名漣川。鶴食川。馬房。

會川。北之。享保日記。家貝土軒内。至新井寺。

○阿弥陀佛堂。奉日あり

別當龍正院

○龍正院

加瀬
里名

金峯山藥堂別當義本坊。上祖ト。古葉。有。十五世。
幼て薦師と。十六世小當。ノ。義の一子。と。止め。十三
吉本坊と。義。天正。頃。冬。二世。と。それより。還俗。身と
成。寛永。年中。吉本坊の後。寶貝權院。二世。萬藏。院。其子
金。と。ひき。般俗の。多くて。明暦の。少し。と。化言坊。二世。別當。院
と。後。まことに。化言坊。退院。と。ゆふ。と。別當職氏神。

神事院正禮念アシタニ、神慮ミツル、御後ミツルと不村氏子ミタケ
 五化言坊跡下淀川邑の萬寶院ミツル居リ。廿五年二十一年改
 晚參ハシマ其子聖圓坊ミツルにて正德の院主ミツル院主ミツル名ミツル聖光
 院ミツル改ミツル其名ミツル。御襟頭ミツル和ミツル村ミツル明照院ミツル喜ミツル。卅時三十時金山寺山
 別當藏ミツルを停ミツル止ミツル下淀川村大學院ミツル小金峯山別當ミツル於ミツル之。丁時
 卷ミツル一枝取ミツル毛ミツル藏ミツル本ミツル如ミツル別當藏ミツル故
 通ミツル已ミツル至ミツル。吉保三歲九月中旬記。聖光院ミツル高見見毛ミツル
 ○當院開祖化言坊ミツル入年ミツル延化ミツル二世化言院ミツル跡ミツル同ミツル三世萬寶院
 霽永ミツル四世正光院ミツル宥光ミツル。安永ミツル元年ミツル公年ミツル入年ミツル。毎龍泉院ミツル宥云
 無入年ミツル實政三年ミツル六世龍正院ミツル宥覺ミツル。安永九年ミツル現住ミツル。前
 安永九年ミツル。家分ミツル一世代ミツル。

○實田寺曹洞

○耕義良山龜貝田寺閑祖ミツル大通宗閑禪師水祿主ミツル音已三百余
 壬寅ミツル當時十八世現住德翁宜孝和尚ミツル

○小種村

○小種ミツル之總名ミツル。少種ミツル舊地ミツル。御事ミツル。御事ミツル。御事ミツル。御事ミツル。

○別當龍正院

○山神社ミツル癸未日ミツル四月土日ミツル

○清木本加藤三室門ミツル
清木本主ミツル

○齋主赤川又五郎ミツル

○阿彌陀堂

○齋主赤川氏ミツル

中新田村

享保郡邑記家耕美嶋領由利郡木賣澤村。川境と見立す。

水神社 祀日あり

衣冠会 総四郎

大新田村

郡邑記家耕美島領龜田由利郡少年澤村同移山田村と境
河口多々有り。

山中明神社 祀日四月七日

別當清水寺

稻荷社

福部羅村

他色一種の屬村の如りれど。主に別村れども此福部
羅村の名より取て其の名と曰ふる草トシ

田地

道

高

中谷地

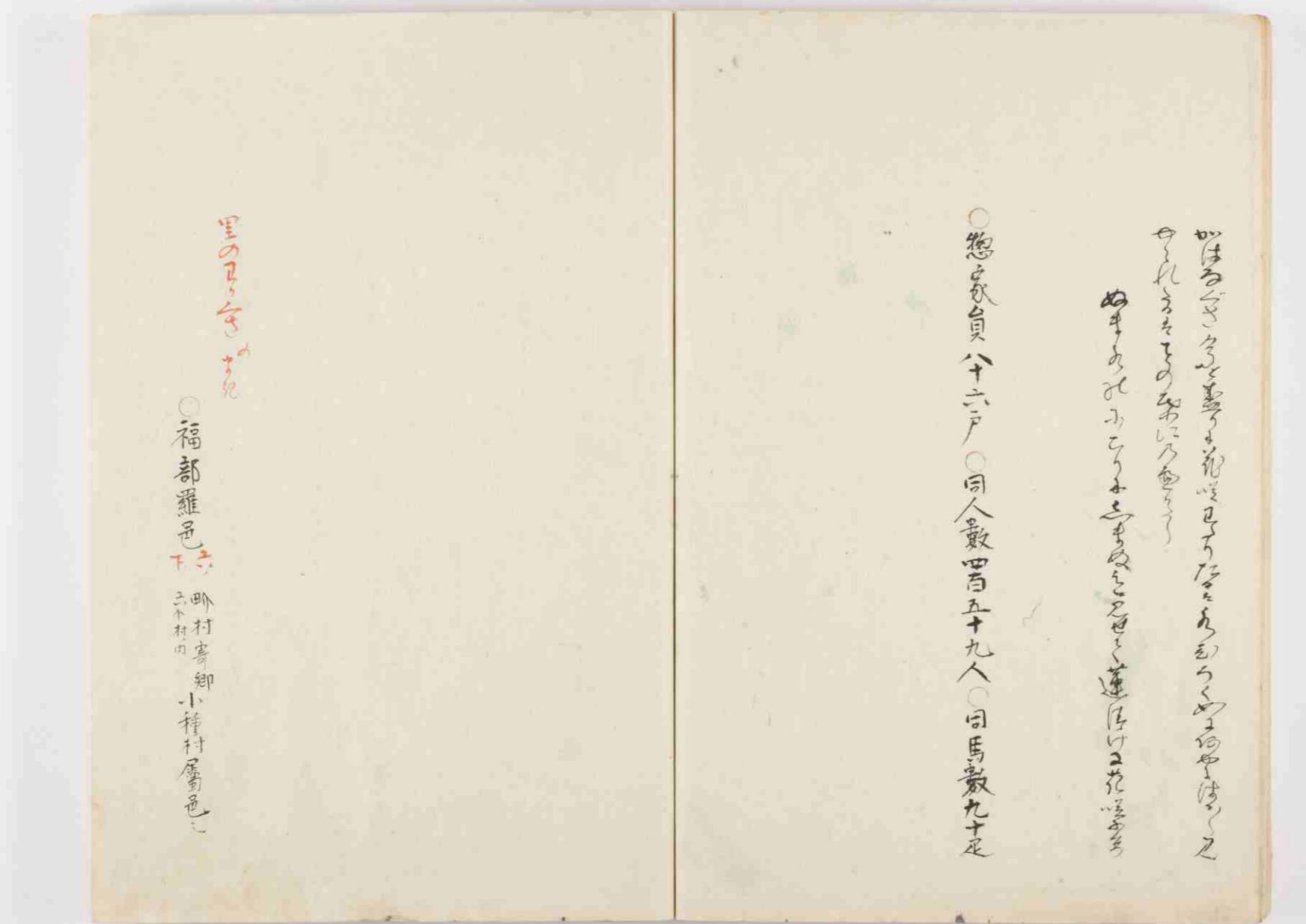
沖田

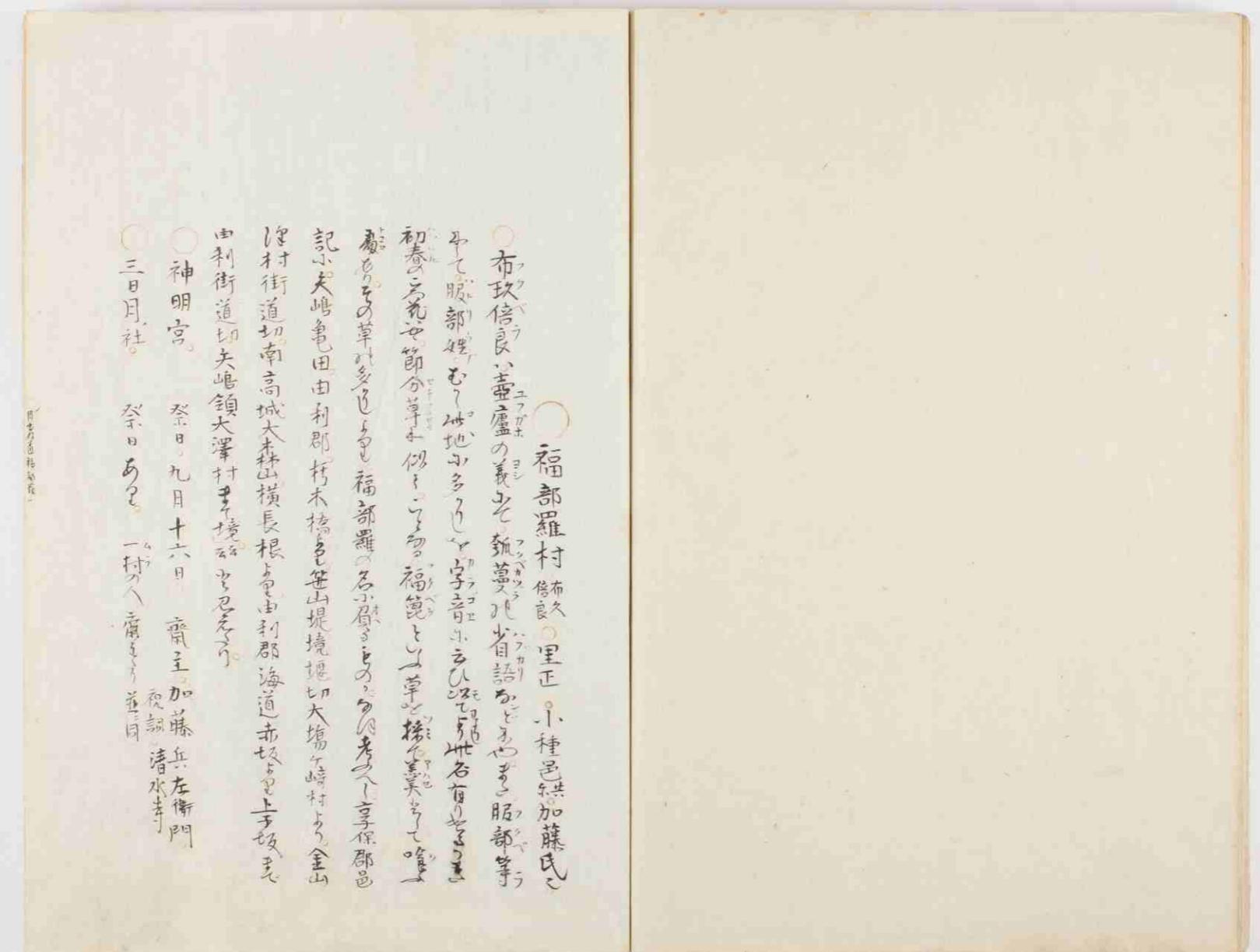
道

高

中谷地

○大沼陳酒七浦南北百步半向有り。大沼蓮池多くやうく花盛
りてす。北之花紅葉す。南之花紅葉す。諸花有り。多き事。世も多
岐。新村々田佃など多く在り。また有まれぬ處の多く有り。今更
あら本多主の末期と云ふ。八龍角又紅葉錦と云ふ。多き事。よ
く大沼一尺五寸二尺の飼もまれ。種りころ事あり。と云ふ。四方
八方を山にて蓮花盛り。中は十舟前後と云ふ。而して御ノ井











破損あり

